

議事要旨

名称	阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する意見交換		
日時	令和5年12月13日(水)	場所	杉並区役所
	14時30分～16時30分		
出席者	<p>○参加者： 杉一小を現在の場所に残したい現役保護者有志の会&OB保護者有志の会 2名</p> <p>●杉並区： 区長、政策経営部施設マネジメント担当課長、都市整備部まちづくり担当部長、都市整備部拠点整備担当課長（事業調整担当課長）、都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）、教育委員会事務局学校整備課長</p>		
配布資料			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第、杉並区出席者一覧 ・ 阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりオープンハウス資料（抜粋） ・ 要望書 			
会議記録（要旨）			
<p>○参加者：今年の6月くらいからこの件に関する活動をやっている。これまでもお願いはしてきたが、やっと区長と面談できて嬉しい。小学6年生と小学4年生の在校生保護者。今年の1月に区民センターでやっていた集会にたまたま参加してこの問題を知った。その後知り合った人から色々な話を聞いてきたところ、5月31日に原風景協議会が区長に要望書を出したということで、その報告会が区民センターで開催されたのでそこに参加した。そこで区議会議員はじめ、たくさんの人と話をして詳しく知ることになった。保護者は流動的で、長くて6年しかいない。ほとんどの人は自分の子どもが卒業した後のことだから、という考えのようだが、先のこととはいえ、今いる人が発言しないと思いが続いているかと思っていて活動をしている。もともと政治色は無いし、こういった活動に参加していた経験も無いが、昨年夏の区長選挙時に駅前で街宣をやっている岸本区長を知った。街宣中に話をさせてもらった。それまで政治には無関心だったが、話を聞いてこの人を応援したいと思い、ささやかながらも初めて選挙活動の手伝いもさせてもらった。昨年10月からはソーシャルサトコズにも入会している。住民の政治への主体的な参加、それによる地方の再生、公共の再生という区長の思いは全く同じ。対話の区政の一步と思ってこの問題で行動している。行政に対するアンチという立場ではなく一緒に考えて進めていきたいという思い。</p> <p>○参加者：おやじの会（すぎいち会）の会長をやっている。小学6年生の在校生保護者。子どもたちが大好きで、子どもたちのためにやれることということで、小2の時からおやじの会に参加している。選挙権が無いので政治参加ということではないが、阿佐谷のすごく良い環境でこんな問題が起こるのかと聞いていなかった。妻が杉一小出身で阿佐谷が大好きという思いがあって、自分もこの活動に参加している。6年くらい前にこの件を知ったが、当時は数年間、仮設校舎に入るといった話だった。その後、コロナになって誰にも話を聞くことができなかった。移転しても、子どもたちが今と同じようにのびのび活動でき、おや</p>			

じの会も同じく活動できればと思っている。そういう内容で区長へのメールを出したが、まだ返事を頂けていない。今日はおやじの会の活動を感じてもらいたく、動画を作ってきたので見ていただきたい。キャンプすぎいちという活動で、夏にキャンプをやり、夜は打ち上げ花火をやっている。今年は逃走中を模したイベントをやったらとても好評で、来年もまたやってほしいと要望を受けたので来春に向けて企画している。もちつき大会もやっている。これを学校でやっているところは区内ではないのではないか。いずれもおやじの会が全て準備してやっている。こういう活動を移転してもできるかどうか不安。

○参加者：7年前に説明会があったという話は聞いたが、この間は全くそういった機会が無かった。

○参加者：我々にしてみれば、移転なのかどうかもよくわからないまま病院工事が始まった。自分としては8月の振り返る会で初めてちゃんとした説明を聞いた。

○参加者：学校関係者のなかでこの話がタブーになっていたのかもしれない。この間、校長やPTA会長と話してきたが、この件についてそんなに詳しく知っている風でなかった。かつて懇談会で進行役を務めた元校長も、「元校長の立場としてこの件について話すことはない。」との反応だった。

これは政治の問題ではない。子どもたちの未来の話のはずなのに、我々保護者が全く知らないというのもどうなのか。教育委員会、学校という組織のなかで情報が広がっていないのではないか。6年間何も知らずにここまで来てしまったので、今になって色々と話を聞いて行動しているが、それを反対運動と見られる方いる。まちの人に話を聞きに行くと「左翼の人か」と言われることもあった。

●（区長）：お二人の立ち位置がよくわかった。具体的な質問をいただいているので、そのことについてお答えしていきたい。まず空白の6、7年間があったというお話について、区職員から答える

●杉並区：これまで学校に関係のあることについて、都度説明の機会を設けてきた。工事用通路を作るときも保護者向けの説明をしたし、CSには毎月工事業者と状況報告をしている。しかし、最近では保護者向けというものはない。タブー扱いされてきたということとは違う。

●杉並区：計画策定時や決定から今日に至るまでの数年間にわたり、情報提供やコミュニケーションが不十分だったという反省はある。計画決定から主に動いていたのはまちづくりの取組で、区画整理事業やまちづくりの計画においては、区域内の方と綿密にコミュニケーションをとってきた。特に地区計画では一定の建築制限がかかるので、区域内の方との合意形成が必要だった。その間、学校関係者、保護者については一番の情報弱者だったのかもしれない。

○参加者：小学校内の活動として、自分の子どもが卒業した後のことなんだ、ということで関心が途切れることがあり、難しく感じている。学校運営協議会や学校支援本部等、学校に長く関わる方が先々の見通しを持って意見することが重要に思っており、重みがあるものと思うが、こうした方々がそのほかの団体と同

列に扱われていることに違和感を持っている。

- 杉並区：区としては、誰の意見ということは無く、皆さんの様々な意見を丁寧に聴き、対応を考えていく。これは移転を決めた際にも様々な方の意見を聴いており、これから先も聴いていく。学校関係者や保護者に情報が伝わりにくいことはあったかもしれない。コロナ禍でコミュニケーションの機会そのものを減らさざるを得なかった状況も影響していたと思う。
- 参加者：要望の趣旨は「完全に白紙撤回すべし」というものではない。根底から覆すのが難しいとは感じているので、「大枠を変えない形でA街区に学校を残すことができないか」というもの。校庭について地上か屋上かと聞かれれば地上がよい、施設について複合か単独かと聞かれれば単独とほとんどの人は答えるだろう。私の子どもは平日習い事に通っており、全て駅周辺。夫婦とも18時半までに帰ってこられないから、その間に有効に時間を使いつつ安全を確保するためにそうしている。こうした子ども関連の施設・サービスが学校と同じ施設内に全て入っていればと思うことがある。以前の学校改築案は「地域に支えられ地域と学ぶ」というコンセプトにぴったりだった。長い時間をかけて学校関係者が熱心に議論して作り上げたコンセプトで、まさに「杉並区教育ビジョンの体現」だった。当時の教育長も「駅前にあるからこそ一般的な学校ではなく阿佐谷のランドマークに」と言っていた。A街区はそういう形の官民複合施設にならないかと思う。また、C街区もそのままということではなく、まず仮校舎として使いつつ、仮設を作って壊すのはもったいないので、本設の施設としたうえで、仮校舎の後は文化的教育的施設としたらよいと思う。周辺は森にしたり防災公園にしたりと、色々この地に必要なものにできるはず。全ての要望を叶えることが難しいのはわかるが、このような発想でいけば、見込んでいた利益は違う形でしっかり供与でき、かつ、計画全体のスケジュールに大きな影響を与えないようにできるはず。三者協定の骨格が学校の移転であることはわかっている。しかし、今後の100年を考えたときに、協定の見直しを含めて数か月から1・2年の時間をかけることは問題ないと考えている。
- 杉並区：有志の会の活動はどのようなものなのか。
- 参加者：100人に満たない。口コミで広がり、有志でLINEグループを作ってやりとりしている。要望をするにあたって、人のアドバイスもあって「会」を名乗っている。中心メンバーは十数人。OB保護者有志の会はまたメンバーが別で、原風景代表の方が中心になっている集まり。代表の方はすぎいち会の会長をやっていた。
- 参加者：要望書は一人の意見というわけではなく、LINEグループ上で仲間内でやりとりし確認して出したもの。
- 参加者：規約があるわけではないし、要望書を議決したわけではないが、仲間うちで議論して出している。
- （区長）：それでよいと思う。そのような活動をしていることに敬意を表したい。私も読ませてもらった。先ほどの話は事前にもらっているオープンハウス用資料への質問事項とも関連すると思うので、それに沿って話してはどうか。

- 杉並区：(質問項目 2) 計画の大枠を活かした形で考えたのが資料にあるスケジュールや学校の建替えのシミュレーション。各種計画や土地区画整理事業、地区計画のやり直しの手続きが生じ、最低でも数年単位の期間が必要。
- 杉並区：そもそも杉一小の移転をするために土地区画整理事業をやっている。そして、杉一小の移転を前提として、あわせて防災性・安全性の向上を図るとというのが計画の全体像。単純化して、学校を移転か現地かということだけを変える場合をシミュレーションしたのが今回のもの。スケジュールは最低限のもの。現地改築スケジュールのシミュレーションは、前提として施行者や関係権利者の同意があるが、それができるという保証は全くない。
- 参加者：学校の建て替えの場所だけ変えるのは協定が関係するかもしれないがこれだけの変更が本当に必要なのか。大枠を変えず、建てる場所を変えるだけであれば、各計画の変更も最小限で済むのではないか。
- 杉並区：移転を前提にこれだけの計画があり、たとえわずかな変更であったとしても変更の作業や手続きが必要になる以上は、これだけの時間がかかることが見込まれる。
- 杉並区：スケジュールの遅延もそうだが、仮設期間が 3～4 年というのは子どもたちへの影響という点で大きいと考えている。
- 参加者：(質問項目 3) 現地で建て替える場合に、複合化して屋上校庭にすればもっと広く校庭をとれるのではないのか。なぜ地上校庭にして比較するのか。A 案での屋上校庭はなんだったのか。
- 杉並区：こちらも、現実的に取りうる計画のシミュレーションで比較を行っている。当時の現地建替え案では、複合化によって建物の規模自体が大きくなることが一因としてあった。今の杉一小が 5,000 m²ほどだが、改築するとこの規模の学校では 7,000 m²ほど必要になる。これと区民センターや産業商工会館を複合化して建てると、地上校庭にして 9 階建てにするか、屋上校庭にして 4 階建てにするかという検討になっていた。しかし、都心で屋上校庭を設けた学校の隣接地には必ず公園がある。地震時に建物の安全性が確認されるまでは一度建物から出てもらって退避する場所が必要。当時の屋上校庭の前提として、けやき屋敷と神明宮を一時的にお借りするという事で約束していた。しかし、けやき屋敷に病院が移ってくるということで、屋上校庭にすることが問題になったことが B 案検討の大きな一因であった。そうすると、今改めて屋上校庭というのはとりえない。
- 参加者：それは初めて聞いた。しかし、病院の余ったスペースをお借りするなどして確保することはできないのか。
- 杉並区：病院とそういう約束をすること自体ができたとしても、けやき屋敷もあったときと比べて明らかに面積が減っているのもそれで十分かどうかはなんとも言えない。そうするとやはり屋上校庭はできないということになる。
- 杉並区：(質問項目 4) 借地料が発生するのは、換地によって A 街区の一部が区所有でなくなり、A 街区全体を使って学校を建てた場合、他の地権者が所有部する分が借地となるためである。

- 杉並区：A 街区の区所有分のみで校舎を作ることはできなくないが、校庭が確保できないので第二校庭のような話になってくるか。そういった想定は考えていない。
- 参加者：こうした議論を活発化させていくには、出ていない極端な対案と比較して否定するのではなく、現実を踏まえて出ている対案と比較した方がいい。
- （区長）：こういう議論をしていくなかで理解が深まっていくのは大いにあると思う。今日区が説明した理由を聞かれて、なるほどと思う部分もあったと思う。これを埋めていく作業無しに、進めていくことは凄く難しい。今日のお話があったことによって、有志の会の方から、皆さんに伝わっていく部分もあると思う。本来だったらこういうことが時間をかけてされていき、みんなの納得感を探すべきだったと思うが、今この状況でということが問題。
- 参加者：(質問項目 7) 遮音フェンスはどんなものなのか。フェンスによって開放感がないのはかわいそうだ。
- 杉並区：桃二小では透明なフェンスになっている。こういうものが必要かどうかはあると思うが、一つの例として示したもの。
- 参加者：周りからの苦情が心配。区が努力するといくら言っても、結局は現場の先生方が頑張るしかない。苦情対応で超過勤務が増え、働き方改革が損なわれることになりやしないか。何かあった場合には区教育委員会も一緒に対応してほしい。
- 杉並区：当然ながら、教育委員会としても各学校の支援を行っている。
- 参加者：住民も入れ替わっていく。どんな人が引っ越してくるかわからない。既に住んでいる人も赤ん坊が生まれたり病気になったり生活環境も変わる。
- 参加者：ジュニアバンドは朝 7 時半から練習を開始する。音楽室だけでなくパートごとに分かれて練習する。別の教室や廊下でやっていることもある。全ての対策はできないのではないかな。
- 参加者：そもそも移転しなければそんな問題にはならないわけで、対策の話ばかりすること自体がどうかと思う。A 街区に残すことがそんなに反対することなのかわからない。残すことの何が悪いのか。
- 杉並区：卒業生で校庭が広い方がいいという声もある。区が言い出して関係者に理解を得てやってきたこと。それを区から変更するというのは違う。それはどちらが大事かということではなく、双方の意見を背負っていかなければならないところもあり、凄く難しい。
- 参加者：「6 年前に議論が十分になされず、いったんそのように決まり、区からお願いしたことではありますが、6 年経って改めて考え直したところ、やはりこちらの方が」と言い出しても、仮に取り立てて困ることではないのなら、関係者はわかってくれるのでは？区はそういう話合いをしていただきたい。
- 参加者：区は区でやらねばならないことはあるが、保護者の立場で出来ることはしていきたい。
- 参加者：地権者や関係者の方も地域のことを考えていただいていると思うので、その方々のご希望も叶える形で軟着陸出来る案を示せば、何が何でも学校を移転

させたいという人はいないのでは。

- 杉並区：地権者や関係者が反対するからということではなく、不十分な点もあったが、区としてこれまで色々決定してきた経過があり、積み重ねてきたことに対して多大な協力や期待もあった。当然それを全部ひっくりかえすのであれば、相応の対応をしなければならないということ。
- （区長）：時間なので私は退席する。今のような話も結局は納得感だと思う。私としては一度決めたことは絶対に変えてはいけないとは思わない。むしろ良くする方向に変えていくべきと思っている。しかし、5年前だったということはあると思う。ここまで進んできてしまったというところはある。関係者の合意を得るために相応の時間と代償が必要になる。この代償は区民の税金から払うことになる。行政としてはそこを考えなければいけない。それに、区としての計画はあくまで B 案であり、そうではない方向性を「検討する」と発表すること自体の重みを背負わなければいけない。そういうことを理解してほしい。

その他